

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人 臨生会 グループホームそよかぜ館アネックス A棟	評価実施年月日	平成20年3月3、7日
評価実施構成員氏名	峯 堂園 相馬 富樫 澤田 鈴木 今田 三好		
記録者氏名	三好 あや子	記録年月日	平成20年3月10日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	安心して暮らし続けられることを目標に、全職員で作上げた理念がある。		今後も、地域の行事の一つでも多く参加し、グループホームの存在や入居者を知ってもらい近所の人と顔見知りの関係を作っていきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員室の壁に理念が貼り出されており、いつでも実践に向けて取り組めるようにしている。		今後も、朝の申し送りやカンファレンス、毎月の行事計画等で理念に基づいたサービスに結びついているか確認していきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回の推進会議を通して、家族や町内会長等と話し合い、理解を求めている。		今後も、アネックス通信に利用者日々の暮らしを写真で載せ、地域での交流を一目で分かるように浸透させていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時の挨拶や、近所の子供達とお話することで、顔見知りになりつきあいが出るように努めている。		今後も、隣近所の子供達に遊びに来てもらえるように働きかけたい。 また、町内の一人暮らしや体の不自由な人で、街にもあまり出向かない人に遊びに来てもらい、利用者とお話をしたり遊ぶ機会を持てるように取り組んでいきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事・花壇の草取りに参加している。敬老の日には子供達と一緒に焼肉をして交流を深めた。夏には、地域の高校生や園児と一緒に、『お祭り』をテーマに高校に出向き、3年目の交流を深めた。		生徒と一緒にイベントや昼食を楽しむ一日デイサービスに招かれ、出店や盆踊りで楽しみ、国語の特別授業では、生徒と机を並べ短歌や俳句を作った。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	畑作りに、近所の人にトラクターで荒地を耕してもらい、石拾いに参加した。敬老会にはお弁当を届け交流を深めた。 地域の高齢者に役立つ取り組みは出来ていない。		運営推進会議で連携をとり、一人暮らしの高齢者にホームに遊びに来てもらい、一緒に食事をしたりお風呂に入ってもらうなど、事業所の力を活かした取り組みができるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の外部評価で指導のあった点を職員全員で話し合い、改善に向けている。</p>	<p>アネックス通信で、「認知症について」シリーズで掲載した。今後も、運営推進会議のメンバーに通信で理解を深め、町内の会館には通信を掲示していただき、顔見知りの関係を深めていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、利用者・家族・町内会長・市職員等に参加してもらい、具体的に資料を作成し、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。</p>	<p>今後も、町内会との交流の一つでも多く参加できるように取り組んでいきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市職員と認知症高齢者検索ネットワーク(SOS)を深めるための依頼についての話し合いを、他の事業所と一緒にいった。また、運営推進会議では市担当者が出席し連携を密にしている。</p>	<p>今後も、認知症高齢者検索ネットワークの取り組みをしていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修参加職員よりの報告など行い活用できるように取り組んでいる。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修に参加している。利用者の言葉かけには注意し、職員間で話し合い、防止に努めている。</p>	<p>今後も、研修等に参加し勉強会やケアカンファレンスにて理解を深めていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>資料やパンフレットで具体的に説明するとともに、事前にホームを見学してもらっている。解約は、病院に入院したり他の施設に移ることが多いので、症状説明や状況説明で納得されている。</p>	<p>今後も、利用者や家族が不安にならないように、説明を繰り返し行い、利用者の状況を判断しながら取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会が多い。その機会を利用したり、職員と一対一になれる時間帯に利用者が安心してくれるため意見を聞き、問題があれば職員会議等で検討している。		今後も、問題が生じた場合、出来るだけ早く会議やカンファレンスを開き、出された意見や願いに対応していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりは、アネックス通信「ぼかぼか」で写真を多く取り入れ、家族の方が一目で分かるように暮らしぶりを知らせている。金銭管理も毎月出納簿で知らせている。職員の異動についても面会時に知らせている。		今後も継続していく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族不満・苦情等は、その都度管理者に話しをしてくれるので、面会時は必ず面談をしている。苦情がある場合は、即職員間で検討し、家族との話し合いで解決している。苦情箱も設置している。		今後も継続していく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日ごろから常に職員の意見を聞きながらケアに取り組んでいる。		今後も意見や提案が反映されるように取り組んでいきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度家族と連携を取り、勤務者の調整を行い、柔軟に対応出来るように配慮している。		勤務者の調整には、個人の意見を聞いてから行っている。今後も常に調整出来るように勤務者の状況に合わせながら行っていきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限に抑えている。ホーム内で異動した場合、職員は時間を見つけて、会話する機会を持ちダメージを少なくしている。又、退職の場合は一緒に写真を撮ったり、支障のない範囲ではっきり伝えている。		止むを得ず職員が異動したり、新しい職員が入った場合は、資料をもってオリエンテーションをしっかり行い、そのユニットに合った人材であるかどうかを検討し、利用者へのダメージを防いでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>全職員が交代でグループホーム主催の研修会に札幌・旭川に出向いている。ホーム内でも勉強会や報告会を必ず行っている。</p>	<p>今後も、研修会には出来るだけ参加できるように取り組んでいく。報告会も行い、実技研修も取り入れていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営推進会議の資料作りに交流をもった。又、SOSネットワークについても交流を深めた。</p>	<p>他事業所見学を通して交流の機会とし、ケアについて現場での悩みや取り組んでいる事などを情報交換し、質を向上させていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレスと感じている様子があれば、職員会議で検討したりしている。又、勤務表作成には、個人の希望を取り入れて休みをつけている。入居者に支障のない範囲で希望に応じて勤務変更も行っている。</p>	<p>職員の人数も限られているため、健康を保持し、ストレスの軽減に向けた勤務表を作成していきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>毎週行われている会議に参加し、実績や勤務状況を伝え、向上心をもって働けるように努めている。 運営者は、毎週現場に来てケアの状況を把握している。</p>	<p>来年度は、4年目なので初心に戻り、ホーム内の実技研修を実施し、向上心をもって働けるように取り組みたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に本人と会って困ったことはないか、情報収集を行っている。環境が全く変わるので、不安や困っていることはないか、声かけを行っている。</p>	<p>今後も、入居者の変化に早目に対応し、職員がゆったりした態度で応じられるように取り組んでいきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時は、支援相談員を中心に、家族が困っていること・不安なことを具体的に聞く機会を作り、家庭を訪問したりホームを見に来てもらったりして信頼関係を築いている。</p>	<p>今後も、家族の訪問時には、不安にならないように本人の思いや家族の思いを取り入れ、安心できるように支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状況をよく見て、何を必要とするのかを家族と相談しながら、必要なサービスの利用を取り入れている。		今後も、本人が環境に慣れないうちに、他のサービスを利用しないように見極めていきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人と家族が一緒に来てもらい、本人が安心して納得した上でサービスを利用してもらっているが、納得したことも忘れてしまうこともあり、家族との連絡調整を大切にしている。		今後も、本人を含め家族との連絡調整を密に行っていききたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	買い物・食事作り・後片づけ・テーブル拭き等、常に一緒に行うように取り組んでいる。味つけや縫い物、習字・俳句は、教えてもらうようにセッティングしたり、カルタやリズム体操等で一緒に楽しんでいる。		今後も継続していく。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の生活歴に合わせ、家族の協力を得ながら快や不快を共に察している。伝承行事の度に飾りつけを見てもったり、一緒に行いながら子育てや親子関係を話し合っている。		今後も、面会の機会に本人の思いを伝え、それに対する家族の思いを聞き入れ対応していく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の面会時には、必ず日常の様子を伝え、それに基づいて話し合えるように支援している。		今後も継続していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	親戚や友人の訪問が多い。訪問しやすい雰囲気作りをしている。買物に出かけた時に、友人や知人に会うと楽しく話しをしている。		外出を多くし、ショッピングセンター等へ出かけ友人や知人に会ってお話することで元気な頃を思い出してもらいたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとりが支えあったり、話し合う事が少ないため、集団体操やリズム体操、カルタ取りを組み込んで利用者同士が関わり合えるように努めている。		今後も、会話がなかなか成立しない利用者には職員が間に入り、かけ橋になっていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設に移った時は本人と会う機会はあるが、家族とはほとんど会うことはなかった。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望や意向に努めている。それが困難な場合は、本人とよく話し合い、その後カンファレンスで検討している。		今後も継続していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	新しく入居された方は、センター方式アセスメント表B1・B2・B3を利用し、家族の協力を得て具体的に情報を把握している。		友人・知人との会話の中からも情報を得ていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各自の居室に一日の過ごし方が書かれた表が貼ってある。経過観察表には食事摂取量・水分補給・排泄チェックを具体的に記入している。その集計は温度表に記録されている。バイタルサインやレクリエーション活動も記入されているため、参加出来たかどうか一目で分かる。変化のあった入居者は、介護記録に経過を記入している。		今後も、記録から入居者の経過が分かるように続けていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月に1回評価・見直し、6ヶ月に1回介護計画を作成している。必ずケアカンファレンスを行ってから作成している。家族の意向も取り入れている。		今後も、入居者の状況に応じて、評価・見直し、計画の期間を短くするなど、利用者本位の介護計画を立てていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その都度、本人と話したり家族の訪問時に話し合うなど、現状に即した計画を作成している。		今後も継続していく。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の介護記録は具体的に記録し、情報として伝えたいことは別紙に記入してシグナルを入れ一週間申し送ることで共有している。		今後も継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	毎月の行事に職員の勤務者を多くし、外出の機会を多く計画し、食事の献立を考えた、ケーキや紅白饅頭、桜餅等職員の手作りで柔軟な支援を行っている。		今後も、町内や地域のイベント、ショッピングセンター等へ外出できるように取組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議で町内会長に協力を得ている。文化祭に作品として、俳句・手芸・書道・ぬり絵・野菜を中心としたカルタ等を展示した。高校生と園児・利用者による、『お祭り』をテーマに高校に招待され交流をもった。		警察・消防・タクシー等と協力しながら支援できるように働きかけていきたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護老人保健施設の支援相談員を中心に、話し合いや他のサービス利用の支援を行っている。		今後も継続していく。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは申し込みを受ける程度の交流で、総合的には介護老人保健施設そよかぜ館が長期的なケアマネジメントを行っている。		地域包括支援センターと連携を取っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	精神神経科は通院されている病院をそのまま継続し、本人や家族の希望により医療機関の変更を行っている。		訪問診療を受けており、通院時間の短縮で利用者の負担が軽減されている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	市立病院担当医師と相談し指示や助言を受けている。		今後も継続していく。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保している。日常の健康管理は常に行い、利用者に変化があれば早目の対応で医療機関を活用している。		病院や介護老人保健施設の看護職等と連携を深めていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	母体となる病院に設置されている「地域医療連携室」と相談し、早期に入院したり、できるだけ早く退院もしている。		今後も、利用者の負担が軽減されるように、地域医療連携室との調整をとっていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	食欲低下や身体機能が悪化してきた場合は、家族と連絡を取りながら医師に直接話を聞いて、全職員に伝え方針を共有している。		症状や訴えが少ないだけに、重度化を早く察知し、家族と共に医療機関に出向き、今後の方針を共有していく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	認知症の進行や身体機能の低下については、職員間で確認・検討し、かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んでいる。		急変時の対応について、再度勉強会を開き、変化に備えて準備していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他へ移られる場合は、情報交換や訪問を繰り返し行い、家族からも本人に伝えていただいている。また、情報を添えて住替えによるダメージを少なくしている。</p>		<p>今後も継続して、ダメージが少なくなるように努めていきたい。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの生活歴に合わせた言葉を使い、対応を行っている。その結果として、本人が喜んでくれることで評価している。記録類は、プライバシーを損ねることのないように人目につかない場所に管理している。</p>		<p>今後も継続する。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望を聞き、自ら決めて納得した上で働きかけを行っている。自分で決められない人は、普段の様子から判断して対応している。</p>		<p>本人の希望を取り入れ、朝食の時間をずらしたり、居室で食事を摂ってもらったり、相撲番組を好む人には、ゆっくり居室で食事をしながら観戦してもらう等、自己決定の支援に取り組んでいる。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ケアプランに沿って、本人がその日、その時に応じられる時に支援している。</p>		<p>今後も継続する。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容は、その都度訪問してもらい、その人の希望に合わせてカット・パーマ・カラーをしてもらっている。又、本人や家族の希望される店にも行ってもらっている。行事の時や出かける時も化粧をしたり、服装にもおしゃれができています。</p>		<p>今後も継続する。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>野菜を切ったり、みそ汁の味つけをしたり、テーブルを拭いたり、食事の準備や片付けを行っている。</p>		<p>今後も、熱めのお茶やみそ汁を好まれる方には火傷に配慮するなど、個人に合わせて継続していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食事制限がないので、家族の持って来てくれた飲み物・おやつを、お茶の時間帯に飲んでもらっている。お酒は、正月のお神酒程度飲んでもらっている。たばこを吸う利用者はいない。		お酒は、敬老の日や正月に、希望に沿って取組んでいきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表に記録し、排泄パターンや回数を把握している。失禁の多い利用者に対しては時間毎に声かけ・誘導している。		今後も、排泄パターンを把握した上で声かけし、排泄時の動きを見逃すことなく失禁や汚染が軽減できるように取組んでいきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、午後に入ってもらっているが、本人の希望やタイミングに合わせ、入浴してもらっている。 浴槽に入った時は、会話を楽しめるように心がけている。		今後も継続していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりが、何時でも自由に休息がとれるようにしている。		今後も、夜間帯の排泄間隔を把握し、事前に排泄を済ませ安心して眠れるように取組んでいく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ケアカンファレンスでその人の人生を振り返りアセスメントし、楽しみが持てるケアプランを立てている。		朝のラジオ体操・午後のリズム体操2曲を、毎日全員で行うように取組んでいる。また、その時の体調により得意とする楽しみごとを行ってもらえるよう取組んでいる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる利用者は、自分で支払いをしている。管理が出来ない人はお小遣いとして預かり、買い物ツアーや食事ツアーの時には職員が支払っている。		買い物ツアーでは、本人が支払い出来るように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望により、散歩や買い物、ドライブに応じている。車イスの利用者には、冬場は散歩に出かけられないため、毎月の行事で戸外に出かけるように支援している。		車イスの利用者も、戸外に出かけられるように配車の準備に取り組んでいる。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族との外出は、食事などに出かけている。バスハイク・買い物ツアー・花見・雪祭り等に出かけ、温泉ツアーでは職員も一緒に大浴場に入り、食事やカラオケを楽しんだ。その後はホテルの横にある不動尊にお参りに行った。		職員全員が毎月2名のペアで企画担当に取り組んでいる。今後も、過去3年間の実績を踏まえて、一人でも多くの家族と共に出かけられるように支援していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族から電話が来た時は、本人とお話しをしてもらっている。手紙は、自ら書くことはなく、年賀状は、一部の入居者が出している。		電話は、普段会えない家族への思いが話せたり、伝わったりし、また小声でしか話せない利用者も大きな声で話すことができるので、今後も遠方で面会が少ない利用者には、電話を活用することを支援していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・親戚・友人等の面会が多い。自由に訪問してもらっている。職員は、必ず家族と情報交換を行うようにしている。		今後も継続していく。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員同士が声をかけあい、危険のないように見守り、拘束は行っていない。		ベッド柵は、自力での起居移動動作に活用でき、転落防止にもなるので、応用していく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝・夕、職員の少ない時、やむなく鍵をかける時がある。チャイムや光で知らせてくれるように設置されている。日中も帰宅願望が強く、混乱状態の時など施錠することあるが、出来る限り対応するように話し合いを繰り返している。		今後も鍵をかけない対応が出来るように、全職員で話し合いを繰り返し、連絡を密にして、施錠することがあっても即対応出来るように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、掃除・調理、個別に関わりながら、居室や居間で見守り出来る場所に位置し、一部見えない居室は、訪室したり、音をたよりに安全確認を行っている。職員同士が声かけ合って、見守りを行っている。夜間についても、見渡せる場所で休むようにしている。		各勤務帯が出勤すると同時に、利用者全員の所在や様子を観察し、介護記録読んでから、申し送りを受けるように取り組んでいる。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はさみ・ナイフ等は、基本的には預かるようにしているが、縫い物を好む利用者には、前後に針の本数を確認している。個人によって、はさみを自己管理している。		刃物は、人目につかない引出しに収めている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事あるごとに、事故に繋がらないかを考えて行動するように、職員に指導している。事故が発生した場合、事故報告書を作成し、全職員で何故起きたのか、未然に事故を防ぐには、と報告を基に振り返りを行っている。		今後も、入居者と職員も含め、事故にならないように、安全であるかどうかを確かめながら対応するように指導を続けていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	吸引器の使い方、骨折時の固定の仕方、担架の作り方などの訓練を行っている。緊急時のマニュアルや家族への連絡表も用意している。		繰り返し、応急手当や緊急時の対応の勉強会を行っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は、月2回実施して、利用者が季節に合った服装で避難できるように、日頃から訓練を繰り返している。地域の人には、利用者の歩行や車イスでの移動を見てもらい、日頃より協力が得られるように働きかけている。		今後は、第1避難場所や第2避難場所について、推進会議の中で話していきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その都度、家族に伝え、食欲減退、体重減少、嚥下困難等の対応策に取り組んでいる。		今後も、病院受診や食事の工夫、言語療法士との連携にて、対応策に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>利用者がいつもと様子が違うと感じたら、先ずバイタルチェックを実施し、夜間の様子、排泄・睡眠・食欲等の経過を比較・検討し受診するかどうか決定する。 入浴前は、バイタルチェックを実施し、入浴中は皮膚の観察を行い、情報を共有し対応に結び付けている。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の用法・用量については、毎食毎に分け、日時と名前を明記している。副作用については、薬の説明書で確認している。 新しく薬が出た時は、全員に伝わるように、書面とシグナルを使い、間違わないように努めている。</p>	<p>今後も、薬を用意する時・手渡す時・開封する時に、3回確認するように、名前を間違わないように指導していきたい。 特に、薬が変わった時の効果や副作用に注意をしていく。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>水分補給に努めている。運動や野菜食、下剤等でコントロールしている。</p>	<p>今後も、便秘の予防に体を動かす働きかけをし、下肢筋力アップにも結びつけられるよう、取り組んでいきたい。(下肢を使ったゲーム等の実施)</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。 自分で出来ない人には介助で、出来る人には声かけや見守りを行っている。義歯は、夜間に義歯洗浄剤に浸し、清潔にしている。</p>	<p>歯科の往診で、口腔ケアと義歯の調整に取り組んでいる。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分量と食事摂取量は、毎食毎に把握し記録している。 献立は、管理栄養士に指導してもらい、栄養のバランスをとっている。 お茶は、午前と午後に水分補給で飲んでもらっているが、水分は、一日に飲んだ総量を記録している。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>手洗いうがいは、毎食前後に徹底して行ってもらっている。特に、職員の出勤時のうがい・手洗いに徹底し、持ち込まないように気をつけている。 トイレと廊下の手すりは、塩素系の漂白剤を入れて毎日掃除をしている。 ノロウイルス発生時の対応として、必要物品をセットして常備している。感染マニュアルを作成している。</p>	<p>今後も、インフルエンザ・ノロウイルス流行時に再指導を徹底し、面会者や職員が持ち込まないように呼びかけていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>調理器具は、定期的に塩素系の消毒液につけて消毒している。ふきんは毎日消毒し、乾燥させてから使用している。食器類は、週1回の消毒、食材は、月日を記入し、古くならないように気をつけている。冷蔵庫には温度計をつけ、温度の調整に努めている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>夏は花壇を造り、プランターを並べ、パラソルと椅子を置き、利用者や家族が安心して休んだり出入りが出来るようにしている。 冬は、アイスキャンドルを並べ、利用者と近隣の人達にも楽しんでもらった。</p>		<p>今後も、冬は屋根の積雪に注意し、安心して出入り出来るように除雪をしていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間や廊下の壁に、季節や伝承行事にちなんだ飾り付けを利用者と一緒に行っている。</p>		<p>今後も、利用者と一緒に、一人ひとりの個性を活かした飾り付けをし、居心地よく過ごしてもらえるようにしていきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>歩行出来る人は、自分の好みの居場所があり、毎日同じ場所で過ごしている。杖歩行や車イスの人は、その時々気分によって過ごしやすい場所にいる。</p>		<p>今後も、気の合った利用者同士で過ごせるように配慮し、車イスの人には希望を聞きながら居場所の工夫をしていきたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なじみの家具や装飾品・仏壇を備え、思い出の写真などを飾っている。</p>		<p>今後も、本人が喜んでもらえるように家族と相談しながら工夫していきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>気になる臭いは、その都度換気を行っている。湿度は、洗濯物を干したり加湿器を備え、24時間調整を行っている。</p>		<p>今後も、気になる臭いが出ないようにゴミ類は所定の場所に運び、下着の汚染はその都度取り替え洗濯し、また、汚物はビニール袋に入れて密閉し所定の容器に入れ、臭いが出たり外から汚物が見えないように取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ・廊下・浴室・玄関に手すりが付いており、歩行や移乗が出来るようになっている。杖をついての歩行者には、見守りや手引きを行っているが、段差がないのでつまづくことは少ない。</p> <p>座ったり、立ったりすることが困難なため、ソファや椅子、ベッドで生活している。</p>	<p>床に座ると起立できない方や、膝が痛くて座れない方がいるので、椅子やベッドの生活を支援し、自立して安全に起立歩行ができるように取り組んでいきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>部屋の入り口には名札や顔写真を掲示し、自分の部屋が分かるようにしている。大きな時計を目の高さに掛け、時間が見えるようにしたり、手作りの大きなカレンダーで月日が分かるように工夫している。</p>	<p>利用者に合わせた環境作りに今後も取り組んでいく。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏は、庭の花やプランターに水をやったり、畑作りで石を拾ったり、種を蒔いて大根を収穫したり、町内の子供達と庭にテントを張り、ジンギスカンを楽しんだ。</p> <p>冬は、アイスクャンドルを灯し楽しんだ。</p>	<p>畑が庭先にあるので、今後も、利用者と一緒に野菜を植えて草を取り、秋には大根の種を蒔き収穫するなど、外での活動に取り組んでいきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 地元の高校生や園児達との交流を積極的に取り組んでいる。年に一度、「ファッションショー」や「お祭り」をテーマにし、アネックスの利用者は当日使用するブーケやうちわを生徒達や職員と一緒に作った。利用者が高校へ行き一緒に作ったり、高校生がアネックスへ来て一緒に作ったりとイベント前から交流することができた。地域との交流については、町内会の子供達やその保護者の方達とジンギスカンをして交流を深めた。その時は子供達から手作りの「壁掛け用写真ケース」がプレゼントされた。バスハイクでは、利用者で作ったおにぎりを持参し「花見」や「紅葉狩り」、「地元の名所」などへ見物に行き、外で会食をしている。また、運営推進会議には市役所の担当職員に毎回参加していただき情報交換している。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人 臨生会 グループホームそよかぜ館アネックス B棟	評価実施年月日	平成20年3月3、7日
評価実施構成員氏名	三浦 遠藤 柿崎 野原 矢島 嶋村 山下		
記録者氏名	山下 美由喜	記録年月日	平成20年3月12日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>安心して暮らせることを目標に、全職員で作上げた理念がある。</p>		<p>今後も、地域の行事に1つでも多く参加し、グループホームを知ってもらいたい。近所の人と顔見知りの関係を作っていきたい。</p>
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員室の壁に理念が貼り出している。いつでも実践に向けて取り組めるようにしている。</p>		<p>今後も、朝の申し送りやカンファレンスで理念に基づいたサービスに結びついているか確認していきたい。</p>
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>2ヶ月に1回 開催している運営推進会議を通して、家族や町内会長と話し合い理解を深めている。</p>		<p>今後も、アネックス通信に利用者の日々の暮らしぶりを写真で掲載し、地域での交流が一目で分かるようにしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や買い物に出掛けた時など、近所の方と会った時は挨拶や会話をしている。</p>		<p>もっと近隣の方と交流する機会を持ち、気軽に立ち寄っていただけるホームづくりをしていきたい。</p>
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の草むしりなどの活動に参加させてもらったり、敬老会の日には町内会の子供達がプレゼントをもって遊びに来てくれた。地元の高校生が中心となり、保育所の子供達やアネックスの入居者と交流の機会を作ってくれている。</p>		<p>今後も、アネックスの入居者が参加できる活動にはどんどん参加し、交流を深めていきたい。</p>
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>アネックスの畑作りの時には近所の方にトラクターで荒地を耕してもらった。アネックスでの敬老会の時にお弁当を届けた。地域の高齢者の役立つような取り組みはしていない。</p>		<p>町内会に住んでいる一人暮らしの高齢者にホームに遊びに来てもらい、一緒に食事をしたりお話をしたり地域に貢献できる取り組みをしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善点があった場合は全職員で話し合う機会を持ち、改善に努めた。		外部評価の結果は全職員に伝わるように毎朝のミーティングで申し送った。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に会議を開催し、町内会長、市役所職員、家族に出席していただきアネックスでの活動等の報告をし、意見や要望をいただいている。その会議内容は全職員につなげている。		アネックス通信を町内会の会館に掲示していただいている。入居している方をもっと知っていただき地域の方々に理解してもらえるような取り組みをしていきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市職員と認知症高齢者検索ネットワークを深める為の依頼についての話し合いを他の事業所と一緒にいった。また、市役所の担当者が運営推進会議に出席し連携を密にしている。		今後も連絡を密にし、関係を深めサービスの向上に努めたい。認知症高齢者検索ネットワークの取り組みなどを働きかけていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会に参加した職員から報告してもらい活用できるように取り組んでいる。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会などに参加し、その後職員全体で勉強会を開いている。		言葉のかけ方、使い方など今後も気をつけたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	運営規定、契約内容、重要事項等について説明し、本人や家族等の不安や疑問点を伺い説明している。		今後も、本人、家族等の不安が解消されるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度でその人の思いを察するように心がけている。またいつもと違う表情をされている時も、そっと話を聞き不安や悩みを解消できるよう努めている。		今後も、不満や苦情がない、利用者にとって住みよいホームにしたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会に来られた時など、利用者の様子や暮らしぶりを伝えている。利用者の健康状態など変化があった時は随時電話連絡し、状況や対応を報告している。金銭の使用状況、領収書は毎月請求書と一緒に送付している。職員の異動等があった時は定期的に発行している便りで伝えている。		今後も家族との関係を密にしていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に「ご意見箱」を設置しているが、面会に来られたときなど、直接意見や苦情等をお話してくれている。苦情等があった場合はすぐに全職員で話し合いの機会をもっている。第三者機関も外部苦情申し立て機関も設置している。		今後も家族が面会に来られた時など、意見や苦情などが常にかかっているようにしていきたい。また、気軽に話していただけるような関係作りをしていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常に職員と話し合いをし、ケアに取り組んでいる。		今後も職員の意見や提案を反映させていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の調整が必要な場合、管理者と相談し対応している。		今後も、常に職員の意見を聞き、よいケアを提供できるように勤務調整をしていきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	配慮が必要な入居者がいる場合、普段と同じ対応が出来るようにその入居者の情報、対応の仕方など、新人職員に事前に知らせている。		今後も、職員の異動や離職は必要最小限に抑えられるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要に応じて職員に研修を受けてもらっている。勉強会や報告会を行っている。		今後も、全職員が研修等に参加できるように働きかけていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議の資料作りやSOSネットワークについて情報交換した。		近隣のグループホームとの交流を働きかけていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員室に休憩室を設けている。管理者は職員のストレスがないかコミュニケーションをとっている。		今後も、職員同士のコミュニケーションを大事にしストレスを軽減していきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	リーダーを中心として利用者により良いサービスを提供できるよう支援している。勉強会などを開き意識を高めている。		今後も、実技を含めた勉強会を実施していきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	支援相談員を中心として関係づくりを行っている。見学に来られた時など本人や家族と話し合いをしている。		今後も、何でも相談できる関係づくりをしていきたい。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	支援相談員を中心に、困っていること不安なことを聞き、今後の対応などを話し合っている。		今後も、家族の不安や求めていることをいつでも相談していける様な関係づくりをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態に合わせた適切なサービス利用を検討し家族と話し合っている。		今後も、他機関との連携を密にしていきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に本人と家族で見学に来ていただきホームの雰囲気に慣れていただいている。		今後も、利用者が安心できるような声かけをし、場の雰囲気に馴染んでもらえるように支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食事づくりや、後片付けなど職員と一緒にいる。時には教えてもらうような場面づくりをしている。		今後も、利用者の楽しみを引き出せるように関わりをもっていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者に変化があったときなど家族に連絡し共に利用者を支えるケアを心がけている。面会に来られたときはコミュニケーションをとっている。		今後も、ホームの行事などに家族の方が多く参加していただけるように取組んでいきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	毎月「アネックス通信」を送付し暮らしぶりを知ってもらっている。遠方の家族からは「写真で見ると元気な様子がわかって良いです。」とのお話をいただいた。		今後も、面会に来られたときなど、本人の様子や暮らしぶりをお知らせし、関係づくりを支援していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	友人などの面会を自由に来ていただいている。なじみの場所で買い物をしている。町で知人や友人に会うと、昔を思い出し話をされることもある。		今後も、なじみの場所へ外出できるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しがちな利用者に対しては職員が間に入りコミュニケーションを取れるよう支援している。トラブルが発生しそうな状況にあるときは、トラブルを回避できるようにさりげなく支援している。		今後も、社会的な利用者を中心としてより良い関係が築けるよう見守っていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了した後の関係は特に継続していない。他施設で本人と会う機会があった。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを傾聴し、実現できるよう支援している。		今後も、いろいろな思いを実現できよう支援していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から情報を得ている。センター方式のアセスメント表を利用し、家族から詳しく情報をいただいている。		今後も、得た情報は記録に残し、情報を共有していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の経過観察表や介護日誌、温度表に毎日の活動内容やバイタルチェックを記録している。		今後も、記録を通して情報を共有していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族からの意見を取り入れカンファレンスを開き意見を統一して計画に反映している。		今後も、カンファレンスにて意見を統一し利用者がより良く暮らせるように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者に合わせて3ヶ月か6ヶ月の見直し期間を設けカンファレンスを開いている。急な状態変化があった場合は適宜カンファレンスを開いている。		今後も、そのときの状況に合わせて、こまめにカンファレンスを開き見直しをしていきたい。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践、結果などは介護日誌に記録している。職員全体に伝えたいことは「伝えたいこと」に記入し、1週間シグナルを入れて申し送りの時に伝えている。		今後も、ケアの実践、結果など個別に記録していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族との外食、外泊などすぐに対応している。外出や買い物の希望なども対応できている。		今後も、本人や家族の要望を柔軟に取り入れられるように職員間の連携を密にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	市にSOSネットワークの設立を求めている。消防署から1年に1回、立ち入り検査を実施していただいている。地元の高校生が「お祭り」をテーマに、アネックスの利用者や交流のある園児たちを高校に招き1日デイサービスを実施してくれた。		今後も、他の機関とも連携していきたい。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて、支援相談員を中心として他機関と連携をとっている。		他機関の方にもっと知っていただくために、アネックスに見学に来てもらえるよう働きかけていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの方が見学に来てくれたことがあった。その後、こまめに連携をとる機会がなかった。		支援相談員を中心として地域包括支援センターと連携していきたい。運営推進会議への出席も働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に母体病院より往診に来てもらっている。随時、母体病院の看護師さんに相談し助言をいただいている。		今後も、日頃から連携をとることで、急な状態変化などに対応していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	市立病院の神経科の先生と相談しながら、治療を受けている。		今後も、細かな情報でも担当の先生に伝え、適切な治療が受けられるよう支援していきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保しているので、他の職員は助言をもらう機会を持っている。		他の機関とも連携していきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	母体病院に設置されている「地域医療連携室」や支援相談員と連携し対応している。		今後も、情報交換を密にし情報を共有していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人の変化がある場合は家族との連絡を密にとっている。本人、家族の意向を取り入れ、全職員で方針を共有している。		今後も、本人、家族の意向を支援していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医や病院看護師の協力を得たり、いつでも相談できるような体制がある。		今後も、本人、家族の意向を支援していけるように、かかりつけ医との連絡を密にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人が不安にならないように家族からお話をしてもらっている。アネックスでの情報は他機関にも伝え、本人のダメージを少なくするように取り組んでいる。</p>		<p>他機関との情報交換をし、本人のダメージが少なくなるように支援していきたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録等、入居者の目に付くようなところに置いておかないよう注意している。プライバシーに関わることは大きな声で話さないように心がけているが、出来ていないときもあった。</p>		<p>今後も、プライバシーを損ねるような言葉かけをしないようにスタッフ全員で心がけていきたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>会話の主導権を利用者にもってもらうことで本人の思いを表してもらえている。個々に合わせた言葉かけで自己決定を支援している。</p>		<p>今後も、利用者が何でも思いを表せるような関係づくりをしていきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>だいたいの日課があるが本人の希望に沿って生活できるよう支援している。</p>		<p>今後も、一人ひとりのペースを大事にしていきたい。さりげない支援に努めたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望があれば訪問美容に来てもらい、カット、ヘアカラーなどを行っている。なじみの美容室に行かれる方もいる。行事などがあるときはお化粧品や、服を選ぶ手伝いをしている。</p>		<p>今後も、身だしなみが出来ていない方にはそっと支援していきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の出来ることに合わせて、料理や食事の準備、後片付けなどを手伝ってもらっている。</p>		<p>今後も、利用者の体の負担にならないように見守りしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>家族の方が買ってきてくれたり、利用者が買い物に出かけて好きなものを買ってきている。傷みやすいものは預かったり、長く置いていないか確認している。日常的にお酒やタバコを飲まれる方はいない。</p>		<p>イベント事があるときなど、希望があればお酒を飲んだりする機会を支援していきたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、失禁のある利用者に対しては定時の声かけや誘導を行うことで失禁が減っている。</p>		<p>今後も、気持ちよく排泄できるように本人に合わせて、声かけや誘導を支援していきたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>清潔保持の為、だいたい3日ごとに入浴を支援している。入浴するかしないかは本人の希望を聞いている。入浴中は会話を楽しめるように働きかけている。</p>		<p>好きな時間に入浴できるように支援していきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>個々のペースに合わせている。疲れが見られるときは声かけし、自室で休んでもらうことがある。気持ちよく休めるように、個々の希望に合わせて自室の環境を整えている。</p>		<p>今後も、安心してゆっくり休めるように支援していきたい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>役割を持っている方は、自分の仕事として楽しみをもって活動されている。役割がストレスにならないように配慮している。</p>		<p>今後も、張り合いある日々を過ごせるように個々の力を引き出す場面づくりをしていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>自己管理できる利用者は、買い物のときに自分で支払いをされている。自己管理できない利用者の分は小遣いとして預かっている。</p>		<p>今後も、買い物を楽しめるように支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望に合わせて散歩や買い物に出かけている。外出する人数によって職員の数を決め、安全に心がけている。		今後も、入居者のストレスが溜まらないように支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別に対応したり、バスハイクにて買い物や花見、雪祭り、温泉などに行き、店で好きなものを注文したり、お弁当を持参し外で食べたりした。		今後も、バスハイクの機会を増やし、楽しみが持てるように支援していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話をかけるときは職員は見守りしている。自力でかけられない方には、番号を押すなどの支援をしている。		手紙やはがきを書く機会を作っていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会に来られた方ともコミュニケーションをとり、一緒に入居者を支えていけるような関係づくりをしている。		今後も、いつでも気軽に訪問できるような雰囲気作りをしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ間の連携をとり、危険な状況がないように見守りしている。		身体拘束についての研修会に参加したり、勉強会を開いて職員の知識を高めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝夕の職員の少ないときや対応できないときにやむを得なく施錠することがある。外出や買い物の希望があるときはすぐに対応するように心がけている。		今後も、利用者がストレスに感じないように対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日勤から夜勤者、夜勤者から日勤者へと個々の状態を引き継ぎ安全に暮らせるように支援している。常に利用者に対して目が届くように職員間の連携をとっている。		今後も、利用者が安全に暮らせるように見守りしていきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	管理できる方は針やハサミ、ナイフなどの刃物を持っている。職員はどの辺に保管しているか把握するようにしている。		今後も、刃物などの紛失がないように注意していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全員で事故がないように見守りや、確認を心がけている。事故が発生した場合は事故報告書を作成し、全職員で事故原因や今後の注意点などを確認しあっている。		今後も、常に職員間の連携をとるように心がけていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	AEDの使用方法、緊急時の対応などを講習している。マニュアルを作成し全職員に配布している。		とっさのときにすぐに対応できるように繰り返し講習会を開いていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は月に2回実施している。季節に合った服装で避難できるように支援している。		地域の住民の協力を得られるように働きかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	体の状態や、体調の変化などがみられる場合はその都度 家族に連絡し、対応など家族と話し合っている。		今後も、他機関、他職種への働きかけをし協力を求めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>体調不良等が見られるときはバイタルチェックし温度表に記録している。本人の様子などは介護日誌に記録し職員間で情報を共有している。入浴時に皮膚の観察を行っている。</p>	<p>今後も、普段と違う状況が見られたときなど、職員間で情報を共有し、観察していきたい。急を要する状態を見極めていきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の説明書は誰でも確認できるように個人用ファイルに閉じている。また、新しく薬を処方された場合その目的と薬の作用、副作用、用法、用量は1週間引き継ぎ、全職員で症状の変化等を観察している。</p>	<p>今後も、正しく服薬していけるよう見守りしていきたい。誤薬がないように職員も薬の管理を注意していきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>水分は1日1000～2000ml摂取できるように支援している。一人ひとりに合わせて食材をきざみにするなど工夫している。毎日、ラジオ体操、リズム体操を行っている。</p>	<p>今後も、散歩や体操、レクリエーションなど、体を動かす機会をつくるよう働きかけをしていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>声かけや見守りし、必要があれば介助を行っている。定期的に協力歯科医院より口腔ケア指導のため、往診に来ていただいている。</p>	<p>今後も、口腔内の異常がないか、一人ひとりの観察を行っていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の献立は管理栄養士に確認してもらい助言をいただいている。定時に水分を摂取できるよう支援している。水分摂取量は温度表に記録している。自室にボトルを持参し、こまめに水分を摂取される利用者もいる。</p>	<p>今後も、食事や水分の摂取状況は職員全体で把握し、きちんと摂取できるよう支援していきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染マニュアルを作成し予防に心がけている。インフルエンザや風邪が流行っている時にはいつも以上にうがい手洗いを強化している。外部からのウィルスの持ち込みに注意している。トイレ内の掃除では塩素系の漂白剤を使用している。ノロウイルス発生時の対応のため必要物品をセットし常備している。</p>	<p>今後も、職員がウィルスを持ち込まないように注意していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食器、ふきんなどはそれぞれ定期的に塩素系漂白剤で消毒している。毎日食材を管理している。食材に触れる場合は必ず手洗いを実施している。		今後も、食中毒の予防のために職員は注意を払い、利用者にも理解してもらうように繰り返し声かけを行っていききたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	夏にはプランターに花を植えて置いたり、椅子を置き利用者がいつでも使用できるようにしている。冬にはこまめに除雪をし歩きやすくなるように工夫している。玄関外にアイスクャンドルを並べ、利用者や近所の方に楽しんでもらえた。		今後も、庭でくつろげるように環境を整備していききたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居間にはソファーやTVがあり誰でも自由に活用している。伝承行事にちなんだ飾りつけなどを利用者と一緒にやっている。		今後も、職員は大きな声で話さないように気をつけていききたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食堂のテーブルで談笑したり、ソファーでくつろぎTVを見ている方がいる。気の合う方を招き、部屋で談笑されていることもある。		今後も、安心した場所で安心した人たちと過ごせるように支援していききたい。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	じゅうたんを敷いたりテーブルを置いたり、くつろげるような空間になっている。		今後も、居心地よく過ごせるように支援していききたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	毎日、自室や居間の空気の入れ換えをしている。冬は湿度を保つよう加湿器を使用している。		今後も、快適に過ごせるように室温・湿度に注意していききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>段差がなく、トイレや浴室、廊下などには手すりが付いている。車椅子の方が出入りしやすいように、その方が使用するトイレの戸を外しカーテンを取り付けている。</p>	<p>今後も、利用者それぞれが自立できるように必要な支援をしていきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>時間がわかるように居間や食堂に時計を掛けている。手作りの大きなカレンダーで日にちがわかるようにしている。トイレがわかるように入り口に貼り紙をしている。</p>	<p>今後も、利用者の力が発揮できるように環境を整備していきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏には外にテーブル、椅子を置きくつろげる空間を作っている。ホームの横に畑を作り、大根の種を蒔き秋に収穫したり、草むしりなどの手入れを行った。外で町内の子供たちとジンギスカンを楽しんだ。</p>	<p>今後も、畑や庭を活用し、外での活動に取り組んでいきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 年に一度「ファッションショー」や「お祭り」をテーマに、地元の高校生が中心となり園児やアネックスの利用者を高校に招き、一緒にゲームや食事会をしている。利用者は当日使用するブーケやうちわなどを作り園児や高校生達に使っていただいた。町内会では、敬老の日に子供達を中心にアネックスへ招待し、庭でジンギスカンをして交流を図った。数ヶ月毎に、利用者と一緒に作ったおにぎりを持参し、バスで「花見」や「紅葉狩り」などに行き外で会食をしている。運営推進会議には市の担当職員に出席していただいている。